

各務原市の戦史伝える

「零戦」新商品名に

各務原市蘇原伊吹町の酒造会社「小町酒造」が、4月から新商品の純米吟醸「零戦のつばさ」を発売する。1939（昭和14）年4月1日に各務原の飛行場で初飛行した零戦。地元でも、その事実を知る人が年々減っており、金武直文常務（40）は「地元の歴史を知ってほしい」と話している。（原博行）

小町酒造

商品化は、金武常務が同市の作家岡田新吾さんの児童小説「約束のつばさ」を読んだことがきっかけ。小説は家族に別れを告げる

ため、戦地に赴く前に零戦で家の上空を旋回したという実話が元になっている。零戦が平和を考える存在として描かれている物語に金武常務が感銘を受けた。

「平和の尊さを考えて」

瓶には「零戦初飛行の地各務原」と記したラベルや小説の表紙に描かれた絵が貼られている。原料は酒造米の飛騨ほまれを使い、芳じゅんで後味のすっきりした純米吟醸に仕上げた。

同社は、収益金の一部を社会福祉活動に寄付する予定。同社のほか市内の酒店数店舗でも販売する。問い合わせは同社、電話058



4月1日から発売する純米吟醸「零戦のつばさ」
—各務原市蘇原伊吹町、小町酒造

(382) 0077。